



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 亀田製菓株式会社

コード番号 2220 URL www.kamedaseika.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長 C00 (氏名) 高木 政紀

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO 兼 管理本部長 (氏名) 小林 章 TEL 025-382-2111

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	77,302	10.2	4,308	48.8	5,928	48.4	3,512	77.1
2024年3月期第3四半期	70,136	△2.4	2,895	△7.5	3,995	△7.6	1,983	24.2

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 4,250百万円 (3.5%) 2024年3月期第3四半期 4,105百万円 (△6.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	166.60	-
2024年3月期第3四半期	94.09	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	125,998	76,174	57.9	3,462.24
2024年3月期	120,510	73,718	58.0	3,317.24

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 72,995百万円 2024年3月期 69,938百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	15.00	-	41.00	56.00
2025年3月期	-	15.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	42.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	102,000	6.8	5,500	23.1	7,000	3.0	4,000	77.2	189.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	22,318,650株	2024年3月期	22,318,650株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	1,235,320株	2024年3月期	1,235,240株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	21,083,391株	2024年3月期3Q	21,083,525株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料は2025年2月7日（金）に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	10
(企業結合等関係) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が引き続き堅調に推移する一方で、物価高の長期化を受けた節約志向の強まりもあって個人消費の拡大は力強さを欠いています。不安定さが続く国際情勢、原材料・エネルギー価格の高止まりや物流コスト・人件費の上昇などが更なる消費マインドの冷え込みを引き起こす懸念もあり、景気の先行き不透明な状況が続いています。

国内の食品企業においては、これらの経済環境を踏まえ、厳しい舵取りが続いています。

こうした中、当グループは、「中長期成長戦略2030」の実行に向けて取り組んでいます。お米の恵みを美味しさ・健康・感動という価値に磨き上げ、お客様の健やかなライフスタイルに貢献する“Better For You”をパーパス（存在意義）として位置づけ、お米の可能性を最大限に引き出し、世界で新価値・新市場を創造する姿、ビジョン（目指す姿）“ライスイノベーションカンパニー”の実現を通じて持続的な成長と企業価値向上を目指しています。

2024年度は、“ライスイノベーションカンパニー”の実現を目指して、独自価値創造型企業への基盤を固めるため、国内米菓事業の独自価値訴求によりキャッシュ創出力を高めるとともに、成長エンジンとなる海外事業と食品事業の拡大を図るための事業ポートフォリオ再構築に向けた様々な施策に取り組んでいます。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、国内米菓事業、海外事業、食品事業ともに前年同四半期を上回る実績を確保し、77,302百万円（前年同四半期比10.2%増）となりました。

営業利益については、海外事業が黒字に転換、国内米菓事業および食品事業も増益となり、4,308百万円（前年同四半期比48.8%増）となりました。また、経常利益は、営業利益の増加および持分法による投資利益の増加により、5,928百万円（前年同四半期比48.4%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,512百万円（前年同四半期比77.1%増）となりました。

各セグメントの概況は、次のとおりであります。

#### <国内米菓事業>

国内米菓事業については、商品性にこだわり、独自価値訴求型の競争戦略への転換を加速するとともに、安定したサプライチェーンマネジメントの確立を図ることで収益基盤の強化に取り組んでいます。

重点ブランドは従来の「亀田の柿の種」「ハッピーターン」「亀田のつまみ種」「無限」シリーズの4ブランドに「技のこだ割り」「こつぶっこ」を加えた6ブランドとし、消費者コミュニケーション強化、ブランド価値強化に努めています。

「亀田の柿の種」は「うましお」の継続的育成に加え「柿の種愛」をテーマとしたブランド強化プロモーションを実施、「ハッピーターン」は「ハッピーターンスパイス」の強化を通じたおつまみ需要へのブランド拡張に加えて「無限」シリーズと共同で人気テレビアニメとのコラボレーション企画を実施するなど若年層の獲得を進めています。「亀田のつまみ種」は冬季限定商品の販売に加えテレビCMを投入するなど重点6ブランドの価値向上に向けた取り組みを推し進めました。また、お米の価値を訴求した商品展開によるCVSチャネル強化や商品戦略に連動する形で生産能力増強や適正価格販売、販売促進費用の効率的な執行等、価値訴求に軸足を置いた活動を展開しました。

これらの取り組みの結果、重点6ブランドの売上高については「亀田の柿の種」「ハッピーターン」「亀田のつまみ種」「こつぶっこ」が前年同四半期を上回った一方、「無限」シリーズ「技のこだ割り」は前年同四半期を下回りました。

また、百貨店向け商品や土産物用商品を製造販売するグループ会社は、コロナ禍後の需要回復は一巡したものの新規店舗の出店効果もあり堅調に推移しました。これらの結果、国内米菓事業全体の売上高は53,053百万円（前年同四半期比7.2%増）となりました。

営業利益については、単体米菓において原材料・エネルギー価格の高騰に対応して10月に「ハッピーターン」など17品目の価格改定を実施しました。また、重点6ブランドへの集中化による筋肉質なポートフォリオへの転換、販売促進費用の効率的な執行、不採算ラインの整理・集約や外部生産委託の活用による生産効率の向上など各種施策に継続的に取り組んでいます。また、百貨店向け商品や土産物用商品を製造販売するグループ会社の好調な業績が加わり、国内米菓事業全体の営業利益は3,608百万円（前年同四半期比8.6%増）となりました。

<海外事業>

海外事業については、北米・アジアの売上拡大の継続、事業構造変革による収益力の強化に取り組んでいます。

北米のMary's Gone Crackers, Inc.は消費者の購入促進を企図して発売した小容量品が大手小売業に採用されたことに加えて、販路開拓にも進展が図られたことで第3四半期連結会計期間において増収に転じました。また、アジア地域は総じて好調に推移し、タイのSingha Kameda (Thailand) Co., Ltd.が輸出拡大による好調を維持、ベトナムのTHIEN HA KAMEDA, JSC.も主力ブランド「ICHI」の強化策に取り組んだことで、海外事業全体の売上高は12,549百万円（前年同四半期比12.3%増）となりました。

営業利益については、タイのSingha Kameda (Thailand) Co., Ltd.における輸出の拡大や中国の青島亀田食品有限公司の業績改善効果など、アジア地域が総じて好調に推移し、同地域では大幅な利益成長を果たしました。さらに、Mary's Gone Crackers, Inc.が第3四半期連結会計期間において収益改善が進んだ結果、海外事業全体では44百万円の営業利益（前年同四半期は営業損失422百万円）と黒字転換しました。

<食品事業>

食品事業については、グループ会社・事業・組織を横断する機能連携を強化したALL亀田体制で事業成長に向けて取り組んでいます。

長期保存食が南海トラフ地震臨時情報発表の影響による備蓄需要増加が継続したことで前年同四半期を大きく上回りました。また、米粉パンは予てより取り組んできた新工場での本格生産を開始し、販路拡大に向けた取り組みを進めています。さらに、植物性乳酸菌についても、機能性を訴求し差別化を図ることで販路拡大に取り組み前年同四半期に比べ増収となりました。一方で、プラントベースフードは植物性原料100%の「植物生まれのグリーンチキン」の販路拡大やBtoB市場開拓に継続して取り組みましたが減収となりました。これらの結果、食品事業全体の売上高は6,202百万円（前年同四半期比45.5%増）となりました。

営業利益については、米粉パンの規模拡大に向けた先行投資負担の増加を長期保存食の増収効果が補い、食品事業全体の営業利益は435百万円（前年同四半期は営業損失302百万円）となりました。

[補足情報]

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	対前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高	70,136	77,302	7,165	10.2%
国内米菓事業	49,493	53,053	3,560	7.2%
海外事業 ※1	11,175	12,549	1,374	12.3%
食品事業 ※2	4,261	6,202	1,940	45.5%
その他（貨物運送等） ※3	5,206	5,496	290	5.6%
営業利益	2,895	4,308	1,412	48.8%
営業利益率	4.1%	5.6%		
国内米菓事業	3,322	3,608	286	8.6%
海外事業 ※1	△422	44	466	—
食品事業 ※2	△302	435	738	—
その他（貨物運送等） ※3	298	220	△78	△26.2%

※1 海外事業は、海外子会社に加え、国内の輸出入取引を含んでおります。

※2 食品事業の主な内容は、長期保存食、植物性乳酸菌、米粉パンおよびプラントベースフード等であります。

※3 その他の主な内容は、貨物運送等であります。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は35,718百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,510百万円増加となりました。これは主に「現金及び預金」が575百万円、「受取手形、売掛金及び契約資産」が1,448百万円それぞれ増加した一方、「その他」が601百万円減少したことによるものであります。固定資産は90,280百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,977百万円増加となりました。これは主に有形固定資産の「その他」が2,830百万円、「投資有価証券」が1,336百万円、投資その他の資産の「その他」が639百万円それぞれ増加した一方、「機械装置及び運搬具」が510百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、125,998百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,488百万円増加となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は27,419百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,437百万円減少となりました。これは主に「支払手形及び買掛金」が510百万円、「電子記録債務」が680百万円それぞれ増加した一方、「短期借入金」が2,267百万円、「未払法人税等」が655百万円、「引当金」が742百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は22,404百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,469百万円増加となりました。これは主に「長期借入金」が4,859百万円、「その他」が588百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、49,823百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,032百万円増加となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は76,174百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,456百万円増加となりました。これは主に「親会社株主に帰属する四半期純利益」3,512百万円及び「剰余金の配当」1,180百万円により「利益剰余金」が2,331百万円増加したことや、「為替換算調整勘定」が300百万円増加したことに加え、LYLY KAMEDA CO., LTD.の株式を2024年4月に追加取得したことにより「資本剰余金」が548百万円増加及び「非支配株主持分」が1,032百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は57.9%（前連結会計年度末は58.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の通期の連結業績予想につきましては、2024年10月29日に公表した業績予想から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,217	9,793
受取手形、売掛金及び契約資産	15,114	16,562
商品及び製品	2,987	3,100
仕掛品	757	879
原材料及び貯蔵品	4,038	3,892
その他	2,106	1,504
貸倒引当金	△13	△14
流動資産合計	34,208	35,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,990	18,746
機械装置及び運搬具（純額）	20,279	19,769
その他（純額）	12,801	15,632
有形固定資産合計	52,071	54,147
無形固定資産		
のれん	2,085	1,994
顧客関係資産	816	748
商標資産	730	666
技術資産	453	413
その他	1,169	1,356
無形固定資産合計	5,255	5,180
投資その他の資産		
投資有価証券	17,336	18,672
その他	11,682	12,322
貸倒引当金	△43	△43
投資その他の資産合計	28,975	30,951
固定資産合計	86,302	90,280
資産合計	120,510	125,998

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,563	5,073
電子記録債務	3,014	3,694
短期借入金	9,652	7,385
未払法人税等	1,101	445
引当金	1,610	868
資産除去債務	70	79
その他	9,844	9,872
流動負債合計	29,856	27,419
固定負債		
長期借入金	11,189	16,048
退職給付に係る負債	582	604
資産除去債務	298	298
その他	4,865	5,453
固定負債合計	16,934	22,404
負債合計	46,791	49,823
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,946	1,946
資本剰余金	170	719
利益剰余金	60,260	62,592
自己株式	△1,903	△1,903
株主資本合計	60,474	63,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,023	1,069
繰延ヘッジ損益	—	4
為替換算調整勘定	5,846	6,147
退職給付に係る調整累計額	2,594	2,418
その他の包括利益累計額合計	9,463	9,640
非支配株主持分	3,780	3,179
純資産合計	73,718	76,174
負債純資産合計	120,510	125,998



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	70,136	77,302
売上原価	51,550	56,018
売上総利益	18,585	21,283
販売費及び一般管理費	15,689	16,974
営業利益	2,895	4,308
営業外収益		
受取利息	103	93
受取配当金	55	66
持分法による投資利益	406	1,179
為替差益	433	399
その他	185	225
営業外収益合計	1,185	1,964
営業外費用		
支払利息	59	91
和解金	—	63
雑損失	—	140
その他	26	49
営業外費用合計	85	344
経常利益	3,995	5,928
特別損失		
固定資産処分損	101	128
特別損失合計	101	128
税金等調整前四半期純利益	3,894	5,799
法人税、住民税及び事業税	852	1,069
法人税等調整額	730	825
法人税等合計	1,583	1,894
四半期純利益	2,311	3,905
非支配株主に帰属する四半期純利益	327	392
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,983	3,512

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	2,311	3,905
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	210	46
繰延ヘッジ損益	△2	4
為替換算調整勘定	859	△203
退職給付に係る調整額	△38	△175
持分法適用会社に対する持分相当額	765	673
その他の包括利益合計	1,794	345
四半期包括利益	4,105	4,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,522	3,688
非支配株主に係る四半期包括利益	582	561

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	4,573百万円	4,753百万円
のれんの償却額	129	131

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内 米菓	海外	食品	計				
売上高								
顧客との契約か ら生じる収益	49,493	11,175	4,261	64,930	5,206	70,136	—	70,136
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	49,493	11,175	4,261	64,930	5,206	70,136	—	70,136
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5	795	7	808	4,129	4,938	△4,938	—
計	49,498	11,971	4,269	65,739	9,335	75,075	△4,938	70,136
セグメント利益 又は損失(△)	3,322	△422	△302	2,597	288	2,886	9	2,895

(注) 1. 「その他」には、貨物運送等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額9百万円は、セグメント間取引消去9百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内 米菓	海外	食品	計				
売上高								
顧客との契約か ら生じる収益	53,053	12,549	6,202	71,805	5,496	77,302	—	77,302
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	53,053	12,549	6,202	71,805	5,496	77,302	—	77,302
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	7	1,227	62	1,296	4,202	5,499	△5,499	—
計	53,060	13,776	6,264	73,101	9,699	82,801	△5,499	77,302
セグメント利益 又は損失(△)	3,608	44	435	4,088	205	4,293	14	4,308

(注) 1. 「その他」には、貨物運送等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額14百万円は、セグメント間取引消去14百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

子会社株式の追加取得

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称	LYLY KAMEDA CO., LTD.
事業の内容	菓子の製造販売

(2) 企業結合日

2024年3月31日 (みなし取得日)

(3) 企業結合の法的形式

非支配株主からの株式取得

(4) 結合後企業の名称

変更はありません。

(5) その他取引の概要に関する事項

当該追加取得は、グループ会社としての相乗効果を一層高め、当グループ全体の経営効率をさらに向上させることを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 子会社株式の追加取得に関する事項

取得の対価	現金	484百万円
取得原価		484

4. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

子会社株式の追加取得

(2) 非支配株主との取引によって増加した資本剰余金の金額

548百万円